

豊橋技術科学大学長 殿

平成18年 6月 8日

審査委員長 大 貝 彰 印

## 論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

記

学位申請者	Bambang Setia Budi	学籍番号	第 039403 号
申請学位	博士(工学)	専攻名	環境・生命工学
論文題目	A Study on the History and Development of the Javanese Mosque (ジャワ・モスクの歴史と発展に関する研究)		
公開審査会の日	平成18年 5月22日		
論文審査の期間	平成18年 4月12日～平成18年 6月 8日	論文審査の結果	合格
最終試験の日	平成18年 5月22日	最終試験の結果	合格
論文内容の要旨	<p>東南アジアで最もイスラーム化が早く、また多くのイスラーム寺院が存在するインドネシアのジャワ島を取り上げ、そこに19世紀末までに建設されたモスク建築の歴史的発展過程と形態的特徴を明らかにすることを目的としている。過去8年間に渡る文献調査と現地探索調査によって、この期間に建設されたほぼすべてのモスクに関するデータを収集し、それをもとにジャワ・モスクの起源とその伝播過程を議論し、さらに立地、役割、平面、構造の特徴を分析した。その結果、第一に最初期のジャワ・モスクはヒンドゥ王国時代の集会用建築をそのまま転用したものであること、第二はジャワ・モスクの主要構造部は基本的に四本の親柱によって構成され、それがピラミッド型の多層屋根を支えていること、第三にジャワ・モスクは立地によって都市中心部の大モスク、宮廷内モスク、コミュニティ・モスク、聖地モスクの四つに分類することができ、それぞれ使用者・使用目的が異なることを明らかにした。</p>		
審査結果の要旨	<p>既往のイスラーム建築研究には、東南アジアの木造モスク建築に対して建築史学から取り上げたものはほとんどなく、本研究は最も多くの事例が残っているジャワ島に焦点を当てて本課題に挑戦した。研究の手順としては、関連分野の既往研究の問題点と本論文の視点を明らかにすることから始め、その上でジャワ島に建設されたモスク建築に関するデータを独自に集めた。これらのデータを、起源、建設経緯、形態、構造、平面などの要素で分析し、ジャワのモスク建築の成立と発展過程に妥当な道筋を提示し、またその形態的特徴を明確化して結論としている。東南アジアのモスク建築史研究にとって先駆的業績として高く評価することができ、今後周辺地域のものとの比較研究への道を開くものである。これら一連の研究成果は、日本建築学会のアジア建築雑誌 (JAABE) に3編にわたり発表され、また日本建築学会アジア建築国際交流大会などの国際会議に2編にわたり報告されている。以上により、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。</p>		
審査委員	大 貝 彰 印	渡 邊 昭 彦 印	泉 田 英 雄 印

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。